

4号機の現状について

下記の4号機の人工衛星写真を分析した友人の技術者から、残念な報告がありました。

「3月16日に撮影された、4号機・燃料プールのある東側の写真が、今日入手できた。東側の原子炉建屋の壁は全て崩壊している。すでに、5F燃料プールの燃料は、1Fまで崩落していると考えられる。なぜなら、4号機で発熱をしている燃料は、燃料プールにある燃料だけで、原子炉は空だからである。」

これは、先週のメモに書いたことが既に16日に起きていた、という意味では、想定されていたシナリオです。



<http://www.digitalglobe.com/index.php/27/Sample+Imagery+Gallery> (16日撮影)

今後どうなるか？

原子炉建屋の下には約10mのコンクリート層（人口岩盤）があり、更にその下には、強固な天然の岩盤があります。燃料はそこまで到達するかも知れません。

私の予想（あくまで予想）では、燃料ペレットは、原子炉建屋内の各部屋のような狭い場所では、数千KWの熱は大きな影響を与えますが、元々、ペレットはバラバラなので（また、恐らく微細化している）、小さなペレット、それも、高々1個が1W程度の発熱では、分散して、そう深くへは到達しないと想像します。

ただ、仮に浅い場所で留まった場合でも、その上にコンクリートを流し込めば、ある程度、封じ込めることが出来るでしょう。

2011-3-21、17:30